

現場の失敗と
その反省
①-2

盛土工事での失敗について

1. 工事内容

当工事は平成13年11月～平成14年3月にかけて、高規格幹線道路整備に伴うパーキング新設盛土工事でエリアには、最大盛土高46m、最大盛土厚10mの腹付け盛土を施工した。

2. 工事の経緯

当該盛土は、旧盛土上に10mの厚さで建設発生土を流用し、腹付盛土の施工を行い完成。

供用後に盛土天端開口亀裂が発生し、盛土表層すべりが生じた。

3. 原因

当該盛土は、旧盛土上に10mの厚さで建設発生土を腹付盛土した。その土質はシラス（砂質土）、ローム（粘性土）、岩砕（レキ質土）等が不均等に混入した。盛土の直接的な崩壊原因は、「①豪雨時の表流水処理の不適」、「②追加盛土時の旧盛土表面の表層処理不足」、「③盛土材の土質不良等による浅層地下水の帯水」などが考えられる。

4. 対策

打込ドレーンにより、盛土内の排水を改良する。降雨時にも水位を上昇させないことによって、所定の安全率を確保する。盛土表面には水抜き土留工を行い、雨裂による浸食を防止するとともに、植生マットにより緑化を確実にを行った。

5. 反省点

平成14年3月に供用開始を控え急速施工を行い、また、他工区からの建設発生土の土質管理が不十分であった。今後高盛土の場合、慎重に施工を行い、十分協議し納得して、品質の良い物を作るため今後の施工に生かしたい。

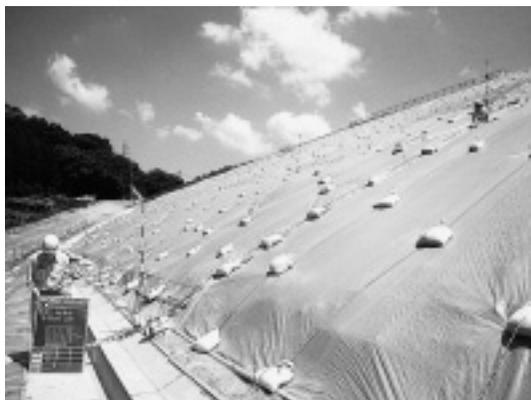


写真-1 法面防護状況



写真-2 対策後完成